

## 海上安全セミナー「安全な航海を目指して」の様様

当協会は、3月2日（水）、海運ビルにおいて、海上安全セミナー「安全な航海を目指して ～海洋を巡る安全上の諸課題～」を開催し、当協会会員会社のほか、海事関係団体、政府関係者、報道関係者等約130名が参加した。

依然として猛威を振るうソマリア沖・アデン湾における海賊事件やホルムズ海峡におけるVLCC襲撃事件の発生などから、海上輸送の安全確保に対する関心が高まっている。本セミナーでは、3名の専門家より、海上交通路を巡る安全上の諸問題に関する概略以下の講演が行われた。

基調講演：「シーレーンの新たな安全保障を目指して」

手嶋 龍一 氏（外交ジャーナリスト、作家）



最近の中東・アフリカ情勢にも触れつつ、インテリジェンス（一般情報から選り抜いた、決断に役立つ精選された情報）を肅々として処理するサイクルが、国家だけでなく企業のレベルでも重要である。チュニジアのジャスミン革命に端を発した中東政情の流動化は、現下の海賊問題を目立たなくしているが、シーレーンの安全確保の必要性はむしろ増している。

さらに東アジアに目を転じると、同盟国アメリカが当面中東情勢の対応に追われることもあって、東シナ海で日本のシーレーンを脅かす潜在的リスクは増大していると思う。そのためにも、日米同盟の立て直しこそが急務であり、海洋で影響力を増す中国の動きに最大限の注意を払う必要がある旨述べた。

講演 1 : 「国土交通省における危機管理」

鵜沢 哲也 氏 (国土交通省 政策統括官付参事官 (危機管理))



日本政府および国土交通省における危機管理体制について説明するとともに、最近の事例として、北朝鮮による砲撃事案および鳥インフルエンザ発生事案を挙げ、国土交通省の対応・取り組みについて説明を行った。

講演 2 : 「日本の海洋政策とシーレーン」

山田 吉彦 氏 (東海大学 海洋学部教授)



わが国調査捕鯨船に対するシーシェパードの妨害や北方領土、尖閣諸島問題など、領海および排他的経済水域における主権確保・治安維持に向けた課題を説明するとともに、シーレーンにおける安全確保として、ソマリアおよび東南アジアにおける海賊事案の状況について説明を行った。

以上